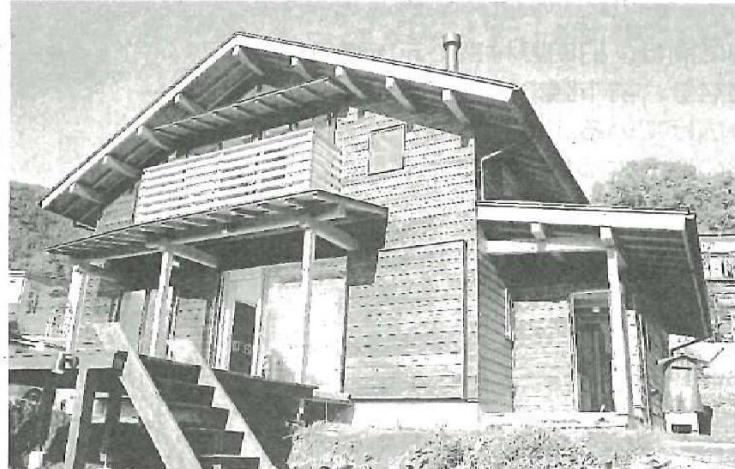


Uターンの男性 大月に自宅建設

大黒柱に「先祖の杉」

手作業で焼いたスギの板を外壁として
張った住宅



上野原市上野原の会社員朝比奈誠太郎さん(32)は、先祖が植えた樹齢100年以上のスギを大黒柱に使い、大月市内に家を建てた。大学進学後、東京都内で生活してきたが、「家族と一緒に自然豊かな山梨で暮らしたい」と考え、Uターンを決めた。朝比奈さんは「特別な思いを込めた家で家族と大切な時間を過ごしたい」と話している。



清水一士、長田哲也
(富士吉田)
野口健介(大月・上野原)
駒田明大(都留)

富士吉田支社
(055)24-1000
FAX 23-6997
都留支局
(0554)45-8880
FAX 45-8880
大月・上野原支局
(0554)22-0477
FAX 23-2324

先祖から受け継いだスギ
を大黒柱に据え、住宅を
建てた朝比奈さん一家=
いすれも大月市七保町下
和田

あす見学会 地産地消を紹介

富士河口湖町出身の朝比奈さんは都内の企業に就職し、妻の早希恵さん(31)と結婚。長男恵太郎ちゃん(5)と次男由希郎ちゃん(2)が生まれた。山梨への愛着や、豊かな自然の中で子育てがしたいとの思いから帰郷を考え、準備のために3年前に上野原市に転居。都内への通勤圏にあり、里山や桂川が近くにある大月市に土地を求めた。

スギは同町の実家の裏山から3本を伐採。直徑約60cm、高さ30mを超える大木で、曾祖父・八五郎さんが植え、樹齢は120年と伝わる。北都留森林組合などの協力を得て、朝比奈さんがチエーンソーを使って切り出した。木造2階建ての住宅を天井まで貴くようリビングの中心に大

黒柱を据え、1階部分のはり延べ床面積は約130平方メートル。全て県産材を使い、外壁は早希恵さんと2人でバーナーで焼いたスギの板を張った。まきボイラーも設け、実家で所有する山から切り出した木材を燃料にして、「自然環境に配慮し、森林整備にもつなげたい」(朝比奈さん)と考えた。

住宅は5月に着工し、このほど完成した。「地産地消の家」として木材の魅力や活用法を紹介しようと、同組合などが12日に見学会を開く。朝比奈さんは「先祖が見守つてくれているような気がする。その思いを感じながら家を大切にして、長く住み続けたい」と話している。

見学会の問い合わせは同組合、電話0554(62)3330。

にも活用した。1階部分のはり延べ床面積は約130平方メートル。全て県産材を使い、外壁は早希恵さんと2人でバーナーで焼いたスギの板を張った。まきボイラーも設け、実家で所有する山から切り出した木材を燃料にして、「自然環境に配慮し、森林整備にもつなげたい」(朝比奈さん)と考えた。

住宅は5月に着工し、このほど完成した。「地産地消の家」として木材の魅力や活用法を紹介しようと、同組合などが12日に見学会を開く。朝比奈さんは「先祖が見守つてくれているような気がする。その思いを感じながら家を大切にして、長く住み続けたい」と話している。

見学会の問い合わせは同組合、電話0554(62)3330。